



アド連便り

第18号

平成31年1月1日発行

発行：全日本青少年育成アドバイザー連合会

編集：広報委員会



平成30年度
理事会を開催

第3回理事・正副専門委員長会 事務局会議を開催

平成30年11月27日(火)～28日(水)にかけて、東京のオリンピック記念青少年記念センターにおいて、第3回理事会・専門委員会・事務局合同会議が開催されました。会長挨拶では、1. 宮城大会後の経過報告。2. 後半の活動計画。3. 来年度の役員体制の決定。等についてあいさつがありました。事務局からは会費納入状況の報告。総務委員会では、基本法制定要望運動の報告。後継者養成委員会では、テキスト作成事業報告などの報告がなされました。



養成講習会の開催について

平成30年度青少年育成アドバイザー養成講習会を、平成31年2月22日(金)～24日(日)の2泊3日で、国立オリンピック記念青少年総合センター(センター棟)で開催することが決まっています。各会員には既に、募集要項が届いていると思います。多くの方に声をかけていただき、たくさんの方に受講していただくようご協力をお願いします。

詳細は、後述しています。



養成講座

2019/2/22~24

東京オリンピックセンター



昨年の様子



お申込は、各県
アドバイザー組織
まで



素晴らしい仲間たちと出 会える養成講座です。

全国から、青少年健全育成の活動や仕事をされる方が参加されます。情報交換はもちろんですが、いろいろな方と友達になります。

あなたの今後の活動に必ず役に立つことができ、養成講座終了後は、小論文を提出することで「青少年育成アドバイザー」の資格を取得できます。



アドバイザー認定後は、各県のアドバイザー組織に加入していただき、多くの仲間たちと活動をしていただきたいと思います。

より素晴らしい日本を作るために、子ども達の安心・安全のために、青少年の健全育成のために一緒に活動しましょう。

毎年、養成講座修了後に、小論文を提出した方の「アドバイザー認定会義」を開催しています。

皆さんの論文を、会義で慎重に審査をしています。



- 参加費 一万七千円(研修費・食事宿泊費)
- 募集定員 80名
- 対象者
- ① 青少年の育成指導・教育・支援等幅広く青少年に関わる活動や仕事をしている人。
 - ② 青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手がかりを学びたい人。
 - ③ 住んでいる地域をいきいきとさせる手掛かりや相談・助言について学びたい人

養成講座募集要項

2月22日～24日養成講座 スケジュール

11. 研修日程と内容

日(曜)	プログラム	内 容	担 当
22日 (金)	開講式 13:00～13:20	主催者・来賓挨拶 オリエンテーション	主催者 後援者
	講義① 13:20～14:20	今日の青少年育成アドバイザーの役割について考えます	全日本青少年育成アドバイザー連合会長 山本邦彦
	講義② 14:30～15:30	「青年リーダーとは何か」を実戦例を交えて具体的に学びます。	元内閣府事務官 櫻川 博三
	講義③ 15:40～17:10	人間の成長・発達課程を軸に、それぞれの発達段階で、どんな関係や活動、経験が必要か学びます。	群馬大学名誉教授 萩原 元昭
	講義④ 18:30～20:00	青少年に関心を抱き、青少年を健全に育む町づくりには、どんな発想が必要か実践例を交え学びます。	聖徳大学名誉教授 聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強
	課題別研究⑤ 20:15～21:45	各グループ：自己紹介で活動状況を出し合い、グループとしての課題や問題を明確にしてまとめます。	助言者：萩原 元昭 福留 強・下田 太一
23日 (土)	講義⑥ 9:00～10:30	進化するSNS社会の現状を知り、青少年育成者はどのように向き合い対応すればよいか学びます。	NPO法人青少年メディア研究協会理事長 下田 太一
	講義⑦ 10:40～12:10	青少年に必要な居場所づくりや連携を築くためのアクションを考えます。	NPO法人ピコネット しぶや理事長 相川 良子
	事務連絡 13:20～13:50	事務局からの連絡案内 アドバイザー活動紹介 など	主催者
	講義・演習⑧ 14:00～16:00	問題を抱えた子どもとその家族の心に寄り添う相談の姿勢を学びます。	青山学院大学教授 小俣 和義
	講義⑨ 16:10～18:00	青年期に見られる精神疾患の理解と向き合い方について学びます。	あさか台相談室室長 藤本 裕明
	課題別研究⑩ 18:10～19:10	⑤で明確化した問題や課題を深め解決や対策の方向性を検討します。	助言者：萩原 元昭 下田 太一・藤本 裕明 小俣 和義・相川 良子
24日 (日)	課題解決の企画立案⑪ 8:30～12:00	各グループでテーマを絞り、おかれた背景や必要条件を明確にし、具体的方策を立案、討議してまとめます。	助言者：萩原 元昭 福留 強・下田 太一 相川良子
	全体会⑫ 13:00～14:00	各グループで立案した方策を発表し、講師からのアドバイスを参考に明日からの活動を明確にします。	助言者：萩原 元昭 福留 強・下田 太一 相川 良子
	閉講式 14:00-14:30	挨拶と修了証授与。	主催者

※ 講師等の都合により変更になる場合があります。

※ 23日は19:30から全体交流会兼夕食を行います。

各地区ブロック研修会



中国四国ブロック 山口大会 平成30年9月28日



会場は、山口県防府市ルルカス防府で開催。開会行事の後、講演は、山口大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 霜川正幸氏。演題は「地域との連携・協働による青少年の健全育成について」～思春期の子ども達と歩きながら考えること～

先生からは、(1)思春期トラブルや少年非行事案の数々と約20年で変化したと感ずることとして、①子どもの粗暴化。②盛非行の急増。③低年齢化と習慣化。の講義をしていただきました。



また、提言として防府市青少年育成センターの指導員 藤村敦司氏から、「青少年の現状と地域社会の関わりに付いて」その後、3名の実践発表があり、峠広報委員長から、スマホの紙芝居が披露されました。親睦交流会は、「はも料理」をいただき、和やかに終了いたしました。山口県の皆様、ありがとうございました。



ブロック研修会

平成30年度で、開催された各ブロック研修会をご紹介します。

東海北陸ブロック愛知大会



平成30年8月26・27日、主催東海北陸ブロック青少年育成アドバイザー（略：アド）連合会、主管愛知県青少年育成アド連絡協議会で名古屋城が一望できる風光明媚なKKRホテル名古屋で開催した。岐阜10名、富山4名、愛知県20名の計34名の青少年育成アドバイザー（略：アド）が参加し、総会と研究集会を兼ねて行った。初めに総会があり29年度事業、会計報告と30年度事業計画、予算が原案とおり承認。また、次年度（平成31年度）は岐阜県が当番県と決まった。

その後、中部大学名誉教授の桐山雅子氏の基調講演『現代の青少年の理解と育成支援』を行った。中部大学で学生相談室を長年担当され、そこに来た学生の悩み相談から見えてきた若者像を語って頂いた。その要旨は次のとおり。

最近の若者はネットの普及など一人でいても困らなくなっているから、人とのつながる力が弱い。それは社会に出ていけない若者の増加になっている。社会人になるまでに育てたいことは①自分の気持ちや悩み・考えを語れるようにする②自信・自分が好き・必要とされているという自己肯定感を育む③対人関係能力として人とつながる力を育てること。「相談」は聞くこと、話した事を受け止めることが大切。聞いたことをくりかえす、あいづち、共感、そして共感の間が必要となる。

「聞くこと」は、話の内容を理解すること。「わかること」は、気持ちを受け入れることになる。相手の気持ちが分かることと自分の考えは別で、なるほどと思えるようになってから自分の意見や考えを伝えると相手も分かってもらえたと感じる。

「聞くこと」で人を育てることになる。そのため①話しやすい場面の工夫②目と耳で聞きながらキャッチボールを続ける。これで①言葉が育ち、考える力が育つ②話せばわかってもらえるという自信・楽しさとなる③認められ、尊重され、わかってもらえた経験がつく④愛されている自分、価値ある自分へつながり言葉・考える力・自己肯定感・人間関係能力が育っていく。

「聞いてもらった体験」は①大切にされた体験②愛された体験③認めてもらった体験となり自信・意欲・信頼・自己洞察・考える力を育て、豊かな人間関係へとつながっていく。

第2部として『青少年育成アドバイザーと地域連携のありかた』のパネルディスカッションがあった。パネリストは富山アド協議会相談役の稲垣喜夫氏、豊田市青少年健全育成推進協議会理事黒柳充子氏、美濃加茂市青少年育成市民会議理事長（アド岐阜県連絡協議会副会長）平田芳昭氏、愛知県アド連会長峠テル子氏の4名でコーディネーターは桐山中部大学名誉教授で行った。

稲垣氏は、6月に起きた富山交番拳銃奪取殺人事件の21歳の犯人が立山町出身者であったことを取り上げ、「山岳の立山は清く正しく美しく人を健全に育てるシンボルとして例えられ、また、あがめられてきた。その基で育った青年が、なぜ今回の事件を起こしたのか残念でならない。地元新聞では子育て、環境、親子関係などいろんな角度からの指摘があったが、健全育成について考えさせられた事件だった。健全とは豊かな心を育てることで、自分を振り返り子どもと一緒に考えることが大切」と話された。

ブロック研修会

平成30年度で、開催された各ブロック研修会をご紹介します。

東海北陸ブロック愛知大会 つづき



黒柳氏は、豊田市の松平地区のコミュニティ会議で青少年育成部会を含め、全体をまとめる運営委員長をし、また、昨年度までは豊田市青少年健全育成推進協議会の副会長として青少年育成員研修会を企画してきた。その関係から、「アドバイザーはマンネリ化する育成員別別研修会を学んだ新しい知識や取組、運営方法をアドバイスし活性化させてほしい」と希望し、困難を抱える子どもがいたら、過去の例では「その子を認め、ママ友と相談し積極的に子どもの行事に引き入れうまくいった」と体験を語った。

平田氏は、アドバイザーであり青少年育成市民会議の役もやっている関係から、青少年育成市民会議事業がアドバイザー的活動となっているとし、「行政は壁を作りたがるが、アドは壁の間に入って風通しの良いものにする役割がある。

アドは資格を取ったから仕事が舞い込んでくるものではなく自ら創っていくものだ」と指摘した。「PTAのある活動を市民会議に巻き込一緒にやるように仕掛けた。自分は子ども映画会やゲーム大会を行い子どもと接している」と体験を発表した。また、子どもは親のすることをよく見ているので、「靴を揃える、挨拶をするなど地道なこともしっかりする必要がある」と語った。

峠氏は、アド資格を取った後、何処からも連絡がなかったが、平成15年に愛知県アド連を作るときに誘いがあり、それからずっと活動しているとし、「県教育委員会の安心ネットインストラクターの講習会を受け、青少年のネットモラル啓発に目覚めた。県の会長になって、アドバイザーの役割としてネットモラル啓発を思い立ち現在、紙芝居とカルタを利用して子どもや保護者に啓発を行っている。全国を回り啓発と普及に努めている」と日頃の活動を披露した。また、活動をしていく中で多くの方々と縁を結ぶことになり、「中部大学の学生とのコラボで年2回地域のイベントで紙芝居啓発も行っている」と発表した。また、夢と希望を持ってアドとなった新人に次の世代の担い手として育てることが大切と指摘した。

2日目は、10時から内閣府の中部ブロック地域連携事業があり、22名のアドが参加することになっていて、「できることから地域の健全育成を」の趣旨の大会宣言を採択して8時15分に終了した。

(報告者：愛知県アド連事務局長 宇野 晃)

活動事例を募集中

皆さんの活動事例を募集しています。

いろいろな組織に属していたり、仕事で青少年育成活動をされておられたり、地域で子ども達と関わった活動をされていたり、いろいろなことをされていると思います。

全日本青少年育成アドバイザー連合会では、平成31年秋に、「活動事例集」を発刊したいと考えています。

皆さんの日頃の活動を事例集でご紹介したいと思います。

各県のアドバイザー組織の会長さんと事務局長さんには、ご案内を送らせていただいています。

是非とも、皆さんの活動を教えてください。 お問い合わせは、清水 成真まで。メール：jyoshin@icloud.com